



学校だより

令和4年2月28日

ひびき

3月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

## 本年度もありがとうございました

校長 大塩 啓介

いよいよ3月、児童・生徒を中心として、日本の学校に関わる人たちにとっては別れの頃となりました。6年生は6年間学んだ学舎を卒業していきます。小学校は最も長く通う校種です。あどけない表情で入学してきた子どもたちが大きく成長し、18日の卒業式には学校を巣立っていきます。児童にとっては、振り返ってみるとあっという間の6年間だったかもしれません。

私は、朝、時間があるときには教室を回って児童の様子を見ていますが、今年も新型コロナウイルスの感染拡大の影響で分散登校など様々なことがあるにもかかわらず、児童の学習への姿勢がすばらしくよくなっています。背中が伸び、椅子を引いて、先生の目をしっかり見て学習しています。しかも、先生の話をつまみ聞いているのではなく、話の一つ一つをきちんと考え、何かつぶやいている様子が見られます。また、このところ何か児童の雰囲気が変わります。授業の様子や受け答えなどに一つ上の学年の雰囲気が感じられ、一年間の成長を感じます。

それぞれの児童が4月からは次のステージへとステップアップします。そこには期待と同時に、学習や友達関係への不安もあると想像します。今、横浜市では「個別最適な学び」を進めています。児童の様々な状況から、不安なく最も力を伸ばせるように学びの場を設定していこうとしています。そのためには先生の数や場所の確保など、様々な課題もありますが、授業形態の工夫などをしながらICTの活用も含め、本校でも進めているところです。来年度は、試験導入している「スマイルネクスト」を正式導入し、今年度と同様、ロイロノートの活用と併せて新型コロナウイルス感染による影響を最小限にしていくと同時に、これを学びの最適化のためのツールとしても活用していきます。

これから、中学校に巣立っていく6年生は、小学校で学んだことを生かし、更に学習に生活にと発展させていってほしいと思います。また、在校生は進級した学年で、更に新しいことを学び、自分を成長させていってほしいと思います。

保護者・地域の皆様におかれましては、今年度も登下校の見守りを始め、様々な場面でご協力をいただきありがとうございました。皆様の支え無しには、今年度も厳しい学校運営だったと思います。来年度も本年度同様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。